

⑥2 雄勝防潮堤災害復旧事業

受賞機関 宮城県 経済商工観光部 東部地方振興事務所 水産漁港部
石巻市

キーワード まちづくりとの連携、地域の活性化

全建賞審査委員会の評価ポイント

防潮堤整備と併せて背後地を盛土し公益施設を一体整備した取組。まちづくりの取組と連携して防潮堤を整備し、地域活性化にも貢献した取組である点が評価された。

1. はじめに

雄勝漁港は、宮城県沿岸部の石巻市北東部にある雄勝湾の湾奥に位置する県管理漁港であり、平成23年に発生した東日本大震災において、最大遡上高がT.P.+21mに達する津波が襲来し、壊滅的な被害を受けた。東日本大震災からの復旧・復興に当たり、県では、数十年から百数十年に一度の比較的頻度の高い津波に対応できる防潮堤を整備することとし、雄勝漁港においては、災害復旧事業により、天端高がT.P.+9.7mの防潮堤を建設する工事を実施し、令和5年1月に全ての工事が完了した。

2. 事業の概要

防潮堤の整備により、防潮堤に遮られて直接海が見えなくなることから、雄勝地区においては、地元石巻市が、海が見える高台の土地を整備する方針を掲げ、平成25年度から、学識経験者のほか、石巻市や県などの関係機関で構成する「石巻復興まちづくり推進会議雄勝地域実務者会議」において協議を重ね、防潮堤を利用したまちづくり計画を策定した。具体的には、防潮堤の一部区間を背面盛土が可能な設計とすることにより防潮堤と同等の高さの高台の土地を造成し、防災集団移転用地のほか、市役所総合支所、公民館、消防出張所や派出所などの公益施設、海鮮井などが味わうことができる観光物産交流館、また、建築材として利用されてきた雄勝石や伝統工芸品の雄勝硯を紹介する雄勝硯伝統産業会館などを集約



雄勝防潮堤と背後のまち並み

して整備することとし、観光物産交流館及び雄勝硯伝統産業会館は、令和3年3月に「硯上^{げんじょう}の里 おがつ」として道の駅に認定されている。また、防潮堤の施工においては、自然景観への調和や施工の合理化のため、自然石を模した残存型枠を使用した。

3. 事業の成果

海と共に生きてきた雄勝地域の住民の方々へ自宅から海が見える生活を提供することができたほか、防潮堤背後の土地に市役所総合支所や公民館などの公益施設などを集約して整備したことにより、公共サービスの利便性向上が図られた。また、道の駅へは、令和5年度には県内外から約9万人が訪れており、交流人口の拡大に寄与している。



海が見える高台にある道の駅

4. おわりに

本事業により、地域の安全・安心の向上につながったほか、地域の賑わいの拠点として活用されている。事業実施に当たり、関係機関や住民の皆様の御理解、御協力、また、水産庁漁港漁場整備部水産施設災害対策室の御指導を賜ったことに、感謝の意を表すものである。

賛助会員 青木あすなろ建設(株)東北支店、(株)復建技術コンサルタント、パシフィックコンサルタンツ(株)、久我建設(株)、国際航業(株)、重吉興業(株)